

平成24年度 事業報告書

ハーバー大慈

1. 《法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

- ①児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき利用者の人権を尊重する。
- ②利用者に対し、適切な自立への支援を行う。

<入居者の異動利用状況>

区分		月別												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
初日在籍数		20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
		46	46	46	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	561
入所	夫の酒乱暴行														
	住宅喪失														
	その他				1									1	
退所	公営住宅入居														
	民間住宅入居														
	復縁再婚														
	その他														
短期保護	母子		1		1									2	
			3		3									6	
	婦人			1										1	

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

母子婦人短期保護の母子家庭は、2世帯6名 婦人は1名 延人員 170名だった。

3. <目標>

①利用者が安心して生活できる環境作り、サービスを提供する。

今年度も利用者が安心して生活出来る様、個別に応じたサービスを提供してきたが、仕事や資格取得時の日曜、祝日の子どもの預かり等、リフレッシュ保育との関係上、ニーズに応える事が出来なかった場面もあった。自立に繋がるサービス、又は利用者が安心して生活出来る様、来年度は職員体制を整え、対応出来る様にしていきたい。

12月より、各利用者の精神面の安定を図る為に、カウンセリングが必要と思われる利用者（24年度、2件）に対し、カウンセラーに来てもらい、カウンセリングを行った。その結果、また違った視点で職員も問題を見つめる事ができ、支援方法も考える事が出来たので、今後も必要なケースに関しては、専門的な機関を利用し、利用者が安心して生活出来る様に努めていきたい。

②研修等に参加し、職員の資質向上を図り、リスクマネジメントに基づきリスクの軽減を図る。

各職員の研修への参加は前年度より少なかったが、今年度も研修で学んだ事を会議で発表してもらい、必要だと感じた事は積極的に取り入れ、実践した。来年度も、研修への参加の数だけではなく、実際に学んだ事を現場で活かし、各職員の資質の向上に繋がる様、各職員の研修に対する意識向上に努めていきたい。

職員の資質向上を図る為に、12月より（基本的に月1回）、心理学の講師を招き、施設内研修を行った。まだ、始めたばかりで、処遇面では大きな成果には繋がっていないが、職員全員が参加する事により、同じ空間で同じ事を学ぶという事に対しては、共通の意識や知識を持つ事ができ、チームワークの向上等、効果は感じられた。来年度も引き続き施設内研修を行い、処遇面で活かせる様に努めていきたい。

4. <支援>

①入所時・入所後にケースワークを通して母子と相談した上で、自立に向けた目標やプランを設定する。

今年度も、ケースワーク等を通し、自立に向けた目標やプランを設定したが、目的が不透明で、機能していないものもあった。より具体的な自立へのプロセスを入所者に理解してもらう為に、来年度は各入所者の短期計画表（6ヶ月計画）を作成し、自立に繋がる支援を行ってきたい。

②支援会議で話し合い、支援の方法を考える。

毎月、問題があるケースを挙げ、全職員が共通の意識を持ち、支援に取り組める様、話し合いをした。また、その支援方法により、問題が生じた場合は、その都度、話し合い、改善に努めた。しかし、①でも記載した通り、各入所者の目標やプランの目的が不透明であったり、突発的な問題が生じたり等、計画的な支援が機能しないものもあった。来年度は、まずはしっかりとした土台（目的が明確な目標やプラン）を作り、質の高い、支援が行える様に努めていきたい。

③児童のよりよい養育の為の支援を行う。

a：小・中学生の学力向上

小学生→各児童、原則、週2回、勉強会を行ったが、習い事がある児童に関しては、勉強が負担になりすぎない様、週1回にする等、個別に応じた学習支援を行った。
中学生→中学3年生には勉強会とは別に、学習する場所を提供し、学習支援を行った。来年度は、中学生の数が増える為、勉強担当者を増やす等、人員の配置にも気を配り、より質の高い学習支援が行える様、努めていきたい。

b：母親への経済的自立に向けての支援（就労支援等）

今年度も残業時の預かりや病児保育（伝染病、高熱以外）等、可能な限りでの支援を行った。しかし、ニーズに応えられない部分もあったので、改善していき、ニーズに対応出来る様に努めていきたい。

5. <<健康診断>>

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年1回	年1回
検便（O-157）	月1回	—	—

6. <<保健衛生>>

害虫駆除を行った。（各居室・短期保護室・事務所・集会室・宿直室）
建物の構造上、排水管が詰まりやすい所があり、詰まった際はその都度、業者を呼び、対応した。また、詰まり対策として、詰まりやすい3階の居室には2週間に1回、職員が台所の排水溝にお湯を流しに行った。

7. <<広報>>

- ・毎月、施設新聞を利用者、関係機関に配布した。

8. <<行事内容>>

①母子生活支援施設協議会 母と子の運動会（湊小学校）

→施設対抗（7施設）のメイン競技（3種目：綱引き、長縄、母親障害物リレー）で全て1位を取る事が出来た。その背景には、参加者全員が“優勝したい”という強い思いを持ち、チーム一丸となって挑んだ事が大きかった。また、児童からも母親が一生懸命、頑張る姿を見て、感動する様子が見られた。今後もこの様な行事を通し、親子間や入所者間の関係が構築出来る様に努めていきたい。

②個別対応遊び（月1回）

→12月は出来なかった為、1月に2回行う。また、3月は個人との関わりを深める為、参加者を少人数にし、2回行う。

今年度は、児童の自立の一環として、料理を中心にプログラムを組み、コミュニケーションを図る場を設けたが、全体的に参加者が少なかった。原因としては案内（告知）の遅れや、プログラムの内容の薄さを感じられる。今後も個別に対応が必要な児童と、密にコミュニケーションが取れる様、プログラムの内容や告知方法については改善していきたい。

③OB会（天安閣、お食事会&カラオケ）

→例年、2月に行っていたが、参加者の年齢が高齢化しており、体調面に負担をかけているのではないかと、という意見が昨年度あった為、今年度は11月に行う。参加者より、「この季節の方が参加しやすい」という声が多かった為、来年度も秋頃を目処に行いたい。内容に関しては、食事やカラオケを楽しむ姿が見られ、「今年も楽しかったです」という参加者からの声も聞く事が出来たので、今後も退所者の交流の場として続けていきたい。

④施設内忘年会

→今年は12月1日に行ったが、職場の忘年会と重なっている入所者もいた為、多くの入所者に参加してもらおう為にも、来年度は11月頃の開催を予定したい。また、食事後、入所者より、「カラオケに行きたい」という声があったので、予定にはなかったが、希望者のみ職員とカラオケに行く。今後も母親の日頃のストレスの解消の場として、行っていきたい。

○月極・・・母の会・避難訓練

○年間行事

月	日	行事	月	日	行事
4	9	昼食会	9	2	母子生活支援施設協議会
	21	昼食会 個別対応遊び (チーズケーキ作り)		3	バス旅行(姫路セントラルパーク)
5	12	昼食会	10	8	個別対応遊び(餃子作り)
	13	母子生活支援施設協議会		15	昼食会
	19	母と子の運動会(湊小学校)		29	焼肉パーティー
	26	昼食会 桧山シート招待 個別対応遊び (おにぎり・卵焼き作り)		6	昼食会
6	5	害虫駆除	11	13	個別対応遊び(カレー作り)
	9	昼食会		20	昼食会
		個別対応遊び(焼きそば作り)		27	アイススケート招待
	10	親子エンジョイ (ナガシマスパーランド)		28	児童エンジョイ(味覚狩り・バーベキュー)
	23	昼食会		11	OB会
7	6	七夕(鮭寿司・豚汁)	12	17	昼食会
	20	昼食会		18	個別対応遊び(餃子の皮でピザ作り)
	21	個別対応遊び(蒸しパン作り)		24	大慈園秋祭り
	25	昼食会	1	25	昼食会
	28	オリックス招待		1	施設内忘年会
	30	昼食会		8	昼食会
				22	施設内クリスマス会
8	3	昼食会	2	25	昼食会
	10	昼食会		6	母子生活支援施設協議会
	11	個別対応遊び(たこ焼き作り)			新春母と子の集い
	17	昼食会	3	7	個別対応遊び(もちつき)
	18~20	母子生活支援施設協議会 児童キャンプ(ハチ高原)		12	個別対応遊び(クレープ作り)
	21	料理教室招待		19	昼食会
	22	昼食会		26	新年会
	23	地藏盆		4	節分(巻き寿司・豚汁)
	28	昼食会		9	個別対応遊び(巻き寿司作り)
				16	昼食会
		17	ランドセル寄贈		
		1~3	母子生活支援施設協議会		
		4	児童スキー(ハチ高原)		
		21	ひな祭り(鮭寿司・豚汁)		
		22	昼食会		
		23	昼食会		
		27	個別対応遊び(バトミントン)		
			個別対応遊び(ボーリング)		

9. 《学習指導》

対象者	頻度	内容
小学生	各児童週1～2回	国語・算数・英語（月に1度、4年生以上の児童） 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成する。 学校の授業についていけない子どもについては、ワークを購入した。 学校の宿題後に行き、行った勉強を母親に渡し、見てもらう。参加できなかった時は、家に持って帰って母親と一緒に解いて、持って来てもらい、職員が採点し返す。
	夏・冬・春の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	国語・算数の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。
中学生	週1回	英語・数学。個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成する。 中3には受験前、個別に学習指導をする。
	テスト前は2日間連続	テスト範囲。
	夏・冬・春の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	英語・数学の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。

10. 《会議》

頻度	会議名		
月1回	職員会議	支援会議	
	リフレ委員会	リスクマネジメント会議	リーダー・サブリーダー会議
年2回以上	三者連絡会議（施設、子ども福祉係・保護係等の各担当者）		

①職員会議（月1回開催）

毎回、行事の予定や報告等、2時間を目処に話し合っているが、各職員の準備不足や会議のあり方への意識の薄さがあり、予定の時間を過ぎても終わらない事が多々あった。本当に必要な事柄に関しては時間をかけ、質の高い会議が行える様、今後も各職員の意識の向上に努めたい。

②支援会議（月1回開催）

入所者の処遇をメインに話し合いを行い、職員一人ひとりから意見は出るが、目的を明確にせず、処遇方法を先に話し合う事が多かった。各職員が広い視野を持ち、今以上に沢山の意見が出る様、会議の進め方については改善していきたい。

③リスクマネジメント会議（月1回開催）

1ヶ月分のヒヤリハット、事故報告書・相談記録・苦情報告書を議題に上げ、改善策等を話し合った。ヒヤリハットでは職員のミスが多く、参加職員で対策を考えるが、職員一人ひとりから厳しい意見が出ない事が多いので、リスクマネジメント会議のあり方を考え、リスクを軽減出来る様に努めていきたい。

④リーダー・サブリーダー会議（月1回開催）

今後の予定や人事等、施設としての方向性を施設長、リーダー、サブリーダーで協議した。

⑤リフレ委員会（月1回開催）

リフレ委員長を主とし、リフレッシュ保育に関する事を協議した。リフレッシュ保育利用者数が年々減少しているので、保育内容や増加対策等について、今後も協議をする場として行っていきたい。

⑥三者連絡会議（年2回以上開催）

施設と役所（福祉）の方で入所者の現況報告を行っている。今後も各機関が協力し、支援に携わっていける様、内容のある会議を進めていきたい。

1.1.《リフレッシュ保育》

①24年度年間延べ1,269人（昨年度年間延べ1,675人）

→前年度より406人、利用人数が減った。固定の利用者2名（1名は毎週月～金曜日利用、もう1名は毎日利用）が昨年度より減ったのが原因として考えられる。1つの増加対策として、現在、日、祝日に関してはキャンセル待ちが出る等、利用希望者が多いので、来年度は日、祝日の職員の出勤日数を1名増やし、利用者枠を広げていきたい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H24	123	76	93	129	94	110	118	102	121	90	102	111
前年比	-14	-47	-5	+5	-56	-22	-22	-14	-43	-74	-54	-60

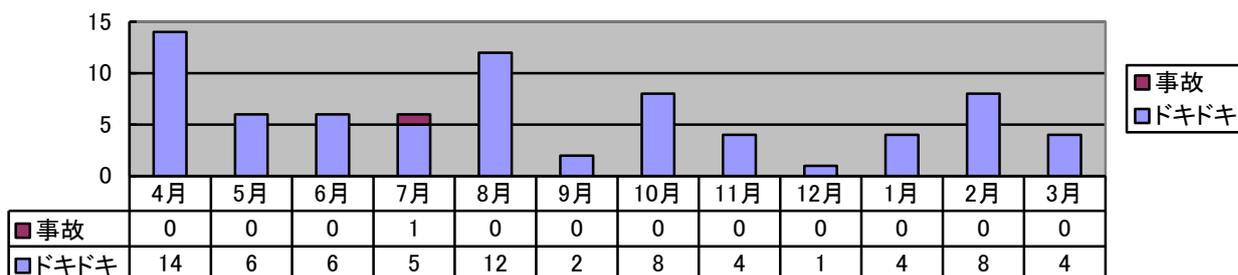
1.2.《リスクマネジメント報告》

①24年度ヒヤリハット報告件数・・・74件（学童保育は除く）

※23年度報告件数77件（学童保育は除く）

→学童が忙しくなる4月、8月に、職員によるミスが多い。7月の事故は、リフレッシュ保育児童が午睡中に熱性痙攣を起こしたので、救急車で病院へ搬送したものの。

ヒヤリ報告(件数)



②24年度ヒヤリハット以外のケガ報告件数（ケガノート） ※学童保育は除く

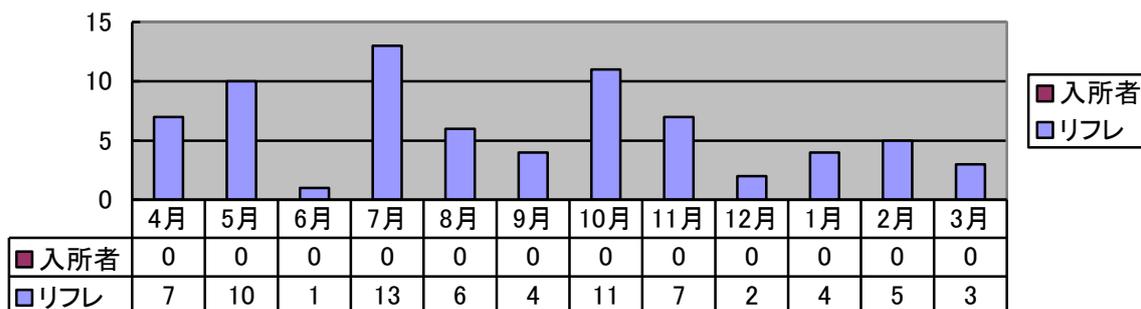
リフレ・・・73件、入所者・・・0件

※23年度報告件数（学童保育は除く） ※23年度は6月より記録をとる。

リフレ・・・61件、入所者・・・6件

→今年度、入所者による、ケガの報告はなかった。リフレは月別に発生数の差はあるが、特記事項はなし。

ケガ報告(件数)



③発生場所別件数

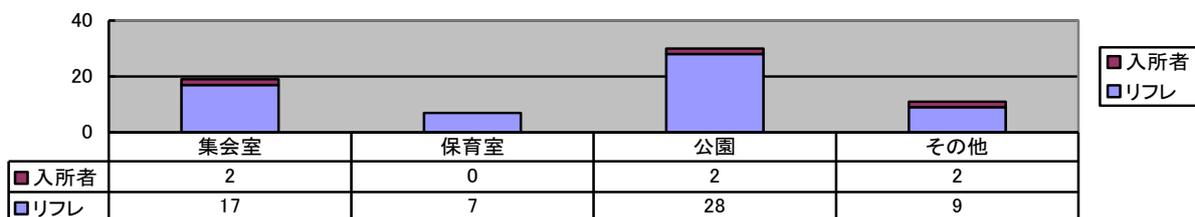
→職員による事務系のミスが多い為、事務所が多い。

ヒヤリ報告(場所)



→リフレは集会室や保育室で過ごす事が多く、発生場所の件数もそれに比例している。

ケガ報告(場所)



④発生状況別件数

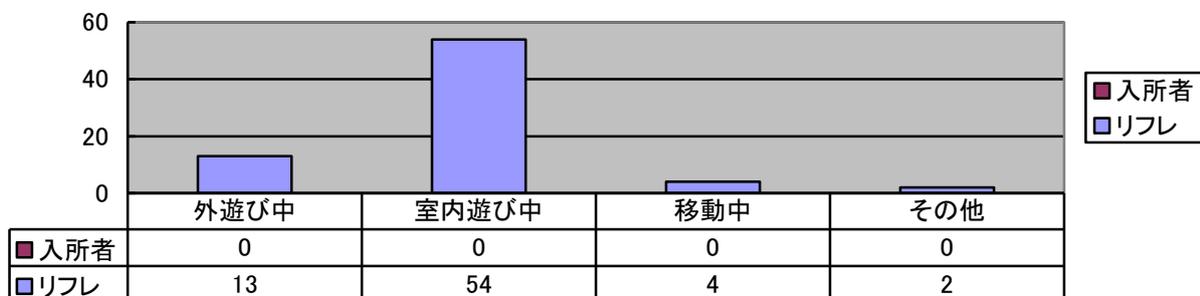
→職員による事務系のミスが多い為、事務仕事中の件数が多い。

ヒヤリ報告(状況)



→遊び中に転んだり等、遊びの中での不慮のケガが多い。

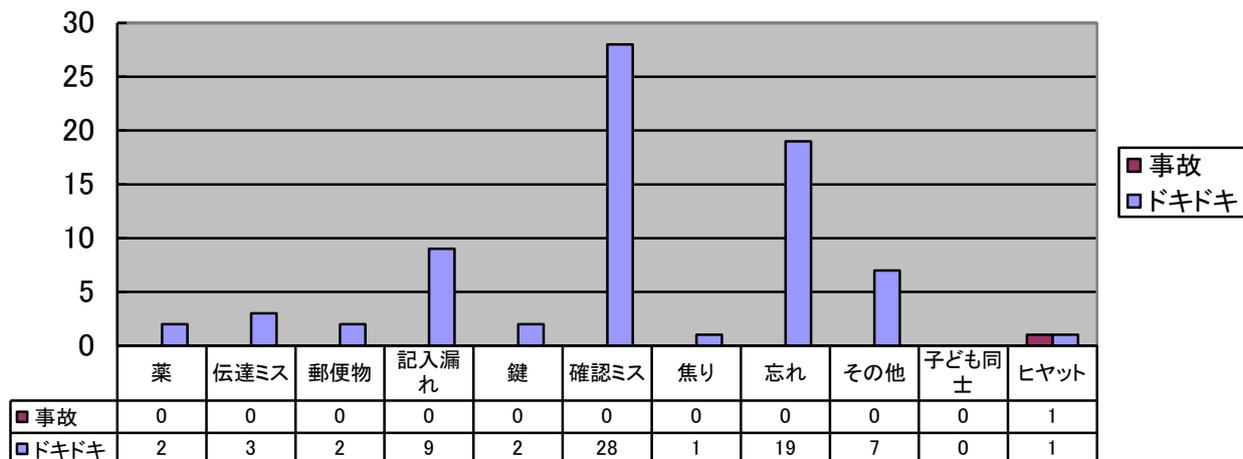
ケガ報告(状況)



⑤発生内容別件数

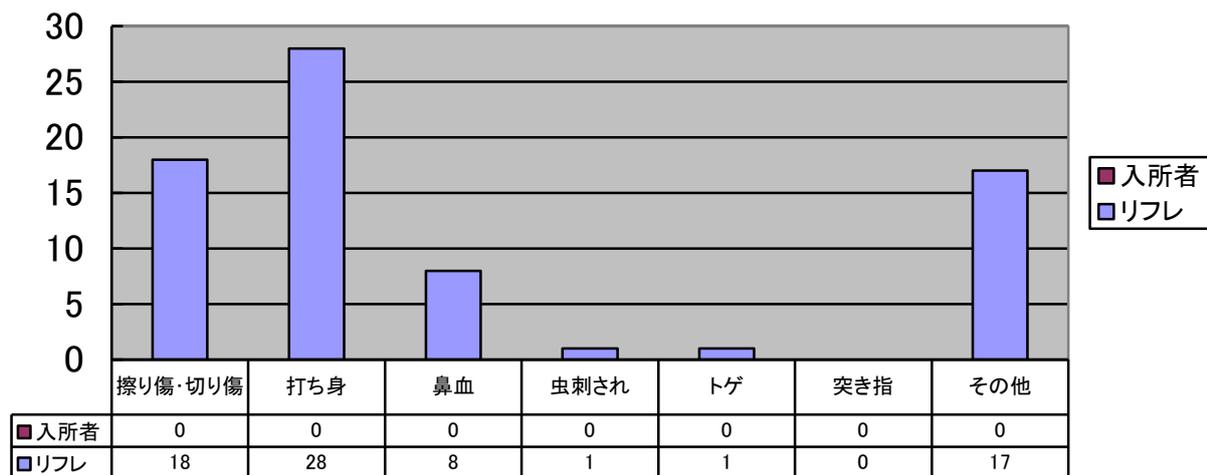
→職員による、事務系の確認ミスが多い。

ヒヤリ報告(内容)



→子ども同士でぶつかったり、転んで頭部を打つ等、打ち身によるケガが多い。

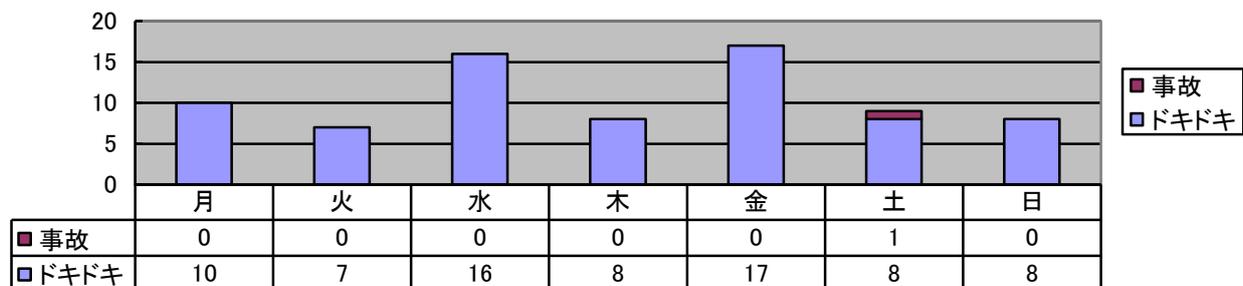
ケガ報告(内容)



⑥曜日別件数

→曜日によっての特記事項はないが、特に水曜日と金曜日が多い。

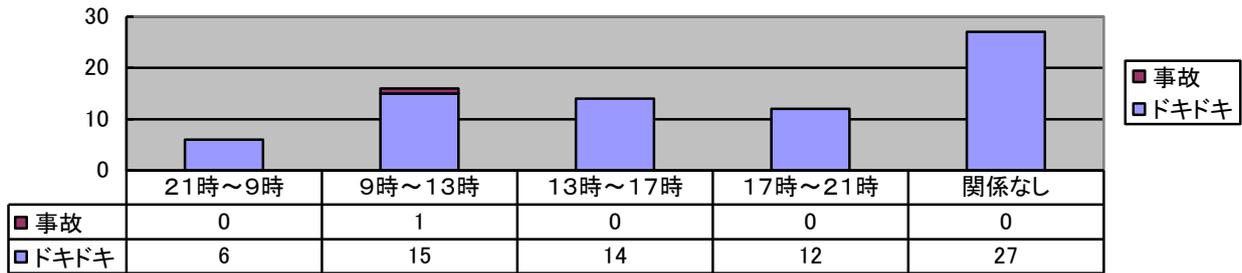
ヒヤリ報告(曜日)



⑦時間帯別件数

→入所者と接したり、職員が事務作業を行う、9～21時にかけて多い。

ヒヤリ報告(時間)



⑧まとめ

- ヒヤリ→職員の事務系のミスが多く、その中でも確認ミスが1番多かった。その都度、対策は立てたが職員の根本的な意識改革がされておらず、似た様なミスも多かった。目の前にある対策だけではなく、各職員の意識の改善に来年度は努めていきたい。
- ケガ報告→遊び中に転んだり等、未然に防ぐ事が難しいケガが多かった。しかし、環境設定を少し変える事で、防ぐ事が出来るケガもあったので、少しでもケガの軽減に繋がる様、職員一同、高い意識を持ち、保育に取り組みたい。

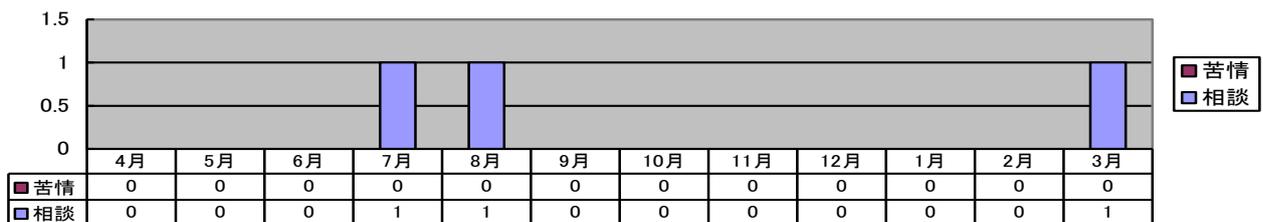
1.3. <<苦情・相談結果報告>> 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

件数…苦情0件、相談5件

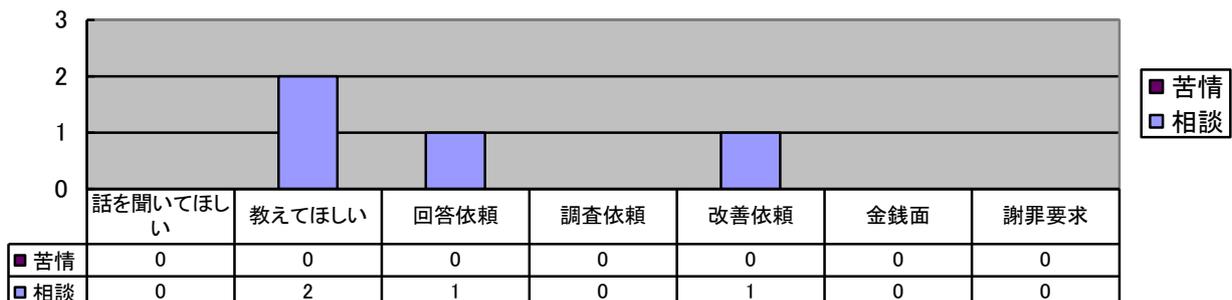
○報告件数

平成24年度				平成23年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	3件	0件	3件		5件	0件	5件

苦情・相談報告(件数)



苦情・相談報告(要望)



※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容（全てリフレッシュ保育利用者）

- ・利用後、子どもの背中にアザが出来ている。
- ・利用時間をもう少し長くしてほしい。
- ・予約について、受付開始日に予約の電話をしたが、いっぱい予約が取れなかった。

○まとめ

苦情は0件で、相談は全てリフレッシュ保育利用者からだった。全ての相談において、職員間で話し合い、応えられるものに関しては、そのニーズに応えた。今後も、より多くの人に福祉サービスが提供出来る様に、相談や苦情があった場合は、改善に努めていきたい。

1 4. 《総括》

2 4年度は様々な面で課題を感じ、組織としての改善の必要性を考えさせられる1年だった。特に、個別のニーズに沿った処遇、効率性の高い業務の進め方、会議のあり方など、母子生活支援施設としての面で課題を感じる事が多く、各職員の資質の向上が求められた。

しかし、下半期辺りからは、そういった、ひとつひとつの課題を改善する為に、新しい処遇計画を導入したり、全職員が同じ意識を持ち、業務に取り組める様に事業計画を作成したり等、組織として少しずつ動き出す姿も見られた。今後も組織として、現状に満足せず、課題を見出し、前進する様に努めていきたい。また、より質の高いサービスが利用者に提供出来る様に職員一人ひとりの資質の向上にも努めていきたい。